

ん」もお手上げ状態でした。もう一人の先生は1回で正解しました。協力していただいたお二人の先生の感想は、共通して、言葉が通じない不自由さを感じました(日本語禁止の為)とのことでした。2つ目の体験は、また一人の先生にステージへ上がってもらい、会場には見えないように1つの絵を見せて、その絵を口頭で会場の先生方に説明してくださいとお願いしました。そして、その説明だけを聞きながら会場の先生方は同じ絵を描くことが出来るかという内容です。

説明が終わり、正解の絵を見せると、自分たちが聞いて描いた絵との違いに会場から落胆の声が聞こえてきました。

この体験をしてもらい、文字や写真、絵カード等の視覚的支援の必要性と具体的なわかりやすい言葉を使う重要性を説明しました。

3つ目の体験は、5人ずつ2チームに分かれて、軍手を二重にはめ、短冊の折り紙で輪っかを作るリレーです。これは手先の不器用な人の体験です。ここで大切なことは、周りが口やかましく応援するよりも、当事者にとっては励ましの言葉をかけてもらった方が、落ち着けて、プラスになるという事です。これに繋げて同じことでも見方を変えれば、捉え方も変わり、良いところを見つけて伸ばせば出来る事も増えていきます。『褒める』重要さも説明に加えました。

最後に私たち親の立場から先生と保護者が同じ方向を向いて、ともに成長を喜び合える、そういった関係になれるようにと締めくくりました。2時間、ノンストップの研修会でしたが、正しい障がい理解が広まれば良いと思います。

事業所協議会職員研修会「高齢になった利用者の支援について」に参加しました

生活介護 西作業所

生活支援員 井出 はるか



令和元年度の記念すべき一回目となる事業所協議会職員研修会が8月2日に行われました。今回のテー



マは「高齢になった利用者の支援について」です。

グループワークでは、他事業所の方々との意見交換から、現場で実際に取り組んでいる支援について学び合うことができ、大変貴重且つ有意義な研修でした。

近年日本では「高齢化」が問題となっていますが、それは障がい者の方々そして私たちにも必ず当てはまることです。しかしながら、いざ老化や未来の自分への対策について聞かれると言葉に詰まる私がいまいました。自分にも当てはまる事でも具体的な想像ができず「まだ先の事」と、後回しにしてしまっている方も多いのではないのでしょうか。【グループワーク風景】



先程述べた通り「高齢化」の問題は障がい者の方々も例外ではありません。そして私たちよりはるかに越えなければならない壁が多いのです。地域生活においても、家族介護者の要介護による負担の増大、高齢化に対応した設備の不足、経済的負担の増大、介護保険と障がい福祉サービスの質の違いによる移行のしにくさなど、多くの課題が存在します。そのような現状の中で我々支援員はどう変わるべきかを今回の研修で改めて考えることができました。

「まだ先の事」と考えるのではなく、「今から出来る事」として考えて、支援員一人ひとりが個々の特性やニーズを忘れずに老化に対する知識を深め、それに基づいた支援を行うべきだと感じました。また、医療施設や特別養護老人施設等を利用される可能性があることを考慮しながら、その時に慌てることなくスムーズに対応できるよう制度や各地域の情報を再確認